

2019/9～2019/12の期間で、システム創成工学科の生徒2人とともに、MITと東大の交換留学プログラムに参加した。



MITの象徴的な建物とされるドーム

## 経緯

機械情報工学科に在籍することが決まった段階のガイダンスで、この留学のことを聞き、情報収集や、TOEFLの受験などの準備を開始した。2019年に入り面接を終え、渡米が確定してからは、ビザの申請、予防接種、奨学金申請、住まいの確保などの準備を半年かけて行い、8月末にボストンへと発った。

## 留学準備

### J1ビザの申請

MIT側のglobal education office(GEO)の指示に従って、フォームを埋めると向こうから書類が届くので、それを持って米国大使館に面接を受けに行く。全体を通して、手間も時間もかかるので、早めに終わらせるのをすすめる。私の場合はぎりぎりに進めてしまったあげく、書類不備で一度却下されてしまったので、間に合うかどうか怪しかったため後悔している。

### 奨学金

東大から案内のあったJASSO奨学金(8万/月)と、サンディスク奨学金(航空費)の申請をした。指示通りに進めれば手続きを進めて、何も問題なく申請ができた。

### 授業

過去の先輩たちの授業を参考にして、履修をきめた。一般的にMITの学部生は3-5つの授業を取ると言われていて、行く前に6つほど目星をつけ、一週目に実際に出席した後に絞り、4つ履修することにした。その際、[MIT Course Catalog](#) や、[Firehose](#)というウェブサイトを利用して授業を探し、時間割を組み立てた。

### 住まい

今年は、MIT側の学部寮の一部が工事のため使うことができず、院生寮、FSILG(後述)、off campus housingの選択肢が与えられた。院生寮は、私が渡航時20歳だったため、申し込む事ができなかったのも、実質2つの選択肢であった。FSILGとはFraternity, Sorority, Independent living groupの総称で、ざっくりいうと一つの家で何十人と一緒にシェアハウスするようなグループの事。FraternityやSororityは比較的Independent living groupよりも繋がりが強めであると思われる。Off campus housingはMITが運営しているサイトを通じて、ボストン、ケンブリッジ周りのアパートを探すという勝手であった。私は、色々調べて、サイトを通じてメールを送ったりもしたが、結局GEOから案内のあったStudent HouseというIndependent living groupに住むことが決まった。



ボストンの展望台から見たチャールズ側、MIT

## 留学期

### 授業

私が履修した授業は以下の4つ。

2.74 Bio-inspired Robotics (12 units)

6.034 Artificial Intelligence (12 units)

6.111 Introductory Digital Systems Laboratory (12 units)

MAS.UR Undergraduate Research (12 units)

MITでは、“mens et manos” (心と手) というモットーがあり、座学などで理論を学ぶのと、実際に手を動かして実戦経験を積むのを両方大事にしている、日本よりも演習系の授業が多いように感じた。2.74 と 6.111はそのような授業で、前半は後半のプロジェクトに向けた座学と演習、後半はプロジェクトに集中という形式をとっていた。また、日本よりも授業数が少ない事もあって、一つ一つの授業は課題が多く、特に学期後半などは朝から夜中まで学校にこもって勉強する事になった。MAS.UR は一般的にUROPと呼ばれているもの。多くの学生が利用している制度で、希望する研究室の院生やポスドクについて働くかわりに、単位か給料を貰えるというものである。私は東大での卒業単位数の関係で単位がほしかかったので、単位をもらって働いていた。いくつか興味のある研究室にメールを送って面談などもしたが、結局縁あってMIT Media Lab の Tangible Media というところで、日本人の研究者のもとで働いた。



### 住まい



私が住むことになったのは、Student House というところで、25人くらいの学生と一つの家でシェアハウスをしていた。所在地はボストンで、レッドソックスのホームグラウンドであるフェンウェイ球場の近くにある。MITのキャンパスから歩いて20-25分程の距離であるが、無料シャトルが30分おきに走っているので、寒くて橋が渡れない日はこれを利用した。他の学部寮などと比べてとても安く、MITの住まいの中で一番安いと言われている代わりに、週に一回、皿洗いか料理をし、更に学期を通じて10時間分家事をなにかする必要がある。家賃は今年は秋学期+冬休みで\$2300で、学期中は週5日メンバーの誰かが作ったご飯が出る、という形であった。メンバー同士の交流もそこそこあって、ご飯を食べに行ったり、誕生日を祝いあったり、卓球やフーズボールをしたり、Cape Codというところに一泊で旅行にいったりもした。また、MITの正規の学部生

は、留学生枠が10%程しかないのだが、Student House のメンバーの多くは留学生で、個人的には欧米人よりも親しみやすく、かなり居心地が良かった。

## 課外活動

### ・ JAM,JSU

学期の最初に新入生向けに東大のサーオリののようなイベントがあり、そこでクラブを見つけることができる。私は音楽系のクラブを探していたがあまり合うものが見つからず、結局どこにも入らなかったが、日本人や、日本に興味がある人で結成されたJSU(Japanese Society of Undergraduates)というところのメーリスに登録してもらって、日本人向けのイベントの情報などを得ることができた。JAM (Japanese Association of MIT) というのは大学院も含めた組織で、ボストン周りで一番大きい日本人コミュニティと言われている。留学期間中もいくつかイベントを開催していて、日本人に限らず多くの学生、大人が参加していた。

### ・ 日本語ランチテーブル

ハウスメートの紹介で、毎週水曜日の昼に開催されているランチテーブルに顔を出していた。これは、日本語を勉強している学生の練習、交流の場として開催されていて、毎週10-15人くらい集まっていた。日本のポップミュージックが好きで、一緒に音楽をできるような仲間も出来て、充実した留学生活を送るうえで非常に有意義な場であった。

## 生活

学期中は基本的にとっても忙しく、休日も課題や勉強で追われることも多かったが、友達とおいしいレストランを開拓したり、一緒に音楽をしたりすることで、息抜きをしていた。機会があるときは知り合いの主催するパーティに顔を出したりもした。食事に関しては、昼は student center という施設のフードコートか、特定の建物に存在する食堂で食べる事が多かった。夜は家で食事が出るので、外で食べる必要はなかったが、息抜きと称して週3-4程の頻度で外食をしていた。物価が高いということもあって、留学にかかった費用はかさんでしまったが、家賃が安いことを考えると平均的な出費だったと思われる。秋学期はいくつか連休があり、それらを利用して少し遠くへ遊びに行くこともあった。Cape Codへの旅行や、ボストンから電車で1時間半ほどで行ける wachusetts mountain というところでスキー・スノーボードをしたり、スポンジボブや、レミゼラブルなどのミュージカルを観に行ったりもした。



## 最後に

今回の留学は、MITという環境に身を置くことで、学術的に成長しただけでなく、普段出会わないような人たちとの交流を通じて人間的にも成長できたと思う。また海外を見据えた将来のキャリアを考える上でとても貴重な経験となった。このような機会を下さり、スムーズな留学をサポートして下さった学科のスタッフ様と、国際交流チームの皆様に深く感謝いたします。